第１回 橿原市総合教育会議 議事録

日時：令和４年１０月２４日（月）
１３時３０分～１５時３０分
場所：Web 開催

＜出席者＞
〇構成員：亀田市長、深田教育長、中平委員（教育長職務代理者）、伊藤委員（教育委員）、松山委員（教育委員）、平田委員（教育委員）
〇市：山風呂理事
【企画戦略部】戸田企画戦略部長、若森企画戦略部副部長、清水企画政策課長、西川企画政策課主幹、山本企画政策課課長補佐、谷本企画政策課課長補佐兼企画係長、大前企画政策課主査、田尻企画政策課主事
【教育委員会】栗原教育委員会事務局長、河野教育委員会事務局副局長、熊本教育委員会事務局副局長、片岡教育総務課長、吉住学校教育課長、吉田人権・地域教育課長、奥村図書館長、浅口中央公民館長、布上こども発達支援課長、井上教育総務課課長補佐
【こども・健康スポーツ部】北野こども・健康スポーツ部長、上島こども・健康スポーツ部副部長、清水こども・健康スポーツ部副部長、今井スポーツ推進課長
【魅力創造部】岸本魅力創造部長、渡海魅力創造部副部長、黒田魅力創造部副部長、久米昆虫館長、露口文化財保存活用課長、山下今井町並保存整備事務所長
＜傍聴人数＞１名

１．開会
２．市長挨拶
【亀田市長】
本日は大変お忙しい中、令和４年度第１回橿原市総合教育会議にご出席を賜り、心からお礼を申し上げたいと思います。昨年度に引き続き、委員の皆様は個別で Web にて参加、また職員については会議室を分散しての参加という形で開催することになりました。何かとご不便をおかけするかと思いますが、ご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いを申し上げたいと思います。
さて、今回の案件はまず、昨年の総合教育会議でお諮りをし、策定をいたしました第２期橿原市教育大綱のアクションプランの評価に関してでございます。令和３年度に実施いたしました各事業計画の取り組み内容と、その成果および課題について取りまとめた評価報告書案を作成いたしましたので、その内容についてご意見を伺いたいと思います。
そして二つ目の案件につきましては、そのアクションプランに今年度から新た

に追加したい事業計画についてお諮りを申し上げたいと思います。令和 4 年度には「文化財の保護」「博物館」に係る業務が教育委員会権限から市長権限へ移ることになりました。スポーツに関することは従来から市長権限ですが、これからも教育という観点からご意見を賜ればと思っております。

両方の案件につきましてそれぞれ担当部署よりご説明をさせていただきます。総合教育会議はご案内の通り、教育の振興を図るための政策について教育委員会と協議をする場ということでございます。教育政策をさらに進行していくために、委員の皆様と意見を交換できたらと考えておりますので、限られた時間ではございますが、何とぞよろしくお願いを申し上げて、冒頭のご挨拶に代えさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

3．出席委員紹介

事務局より紹介

4．議長の指名

橿原市総合教育会議設置要綱第 4 条第 1 項により、市長を議長に指名

5．議題 1「教育大綱アクションプランの令和 3 年度評価について」

【市長】

教育大綱アクションプランの令和 3 年度評価についてです。評価の流れと評価報告書の見方について皆さんと共有をさせていただきたいということで、事務局からまず説明をお願いしたいと思います。

【事務局】

議題 1 につきまして私の方から説明させていただきます。

昨年度の総合教育会議において、橿原市の教育政策についての方針となる第 2 期橿原市教育大綱を作成いたしました。本大綱は、令和 3 年度から令和 7 年度までの 5 年間を期間としておりまして、その方針に基づいたアクションプランを作成し、目標の達成に向けて現在取り組みを進めているところでございます。

資料 1 の報告書は、計画期間の初年度である令和 3 年度を振り返りまして、各事業計画の取り組み状況と成果、その課題や今後の対応についてまとめたものです。ここに、先般実施された教育に関する事務の点検評価および本日の橿原市総合教育会議において、各委員の皆様にいただいたご意見を反映させたものを令和 3 年度の評価報告書として取りまとめる予定でございます。

このアクションプランは、教育委員会の権限に属する事業計画と市長の権限に属する事業計画が合わさったものです。そのため評価も合わせて行うこととしました。昨年度までは教育委員会の権限に属する事務の管理および執行状況の確認については、教育委員会によって毎年、学識経験者によるヒアリングで点検と評価ということで実施をしてきましたが、今年度以降は、アクションプランの評価として、教育委員会の権限に属する事業については、学識経験者ヒアリングによる点検

評価を経て、その上で市長の権限に属する事業も合わせて総合教育会議で意見を伺い、PDCA が適切に実施できるように進めてまいりたいと考えております。

なお、先般 10 月の 6 日に実施された学識経験者のヒアリングでいただいたご意見は、最終的に報告書に掲載しますが本会議では別の資料にまとめておりますのでご参照いただきますようお願いいたします。

報告書の 2 ページから 4 ページにかけて掲載しております事業計画の一覧をご覧ください。右の表の右から 2 列目に点検と評価という項目がありますが、そこに丸がついているものは教育委員会の権限に属する事務の事業計画で、10 月 6 日に学識経験者のヒアリングを実施したものです。

本日の総合教育会議では教育委員会、市長権限問わず全ての事業計画についてご審議いただく対象となりますので、一番右側の総合教育会議の項目には全て丸がついております。

そして、報告書の 5 ページから 6 ページにかけての「3. 評価の取りまとめ」というところに本日の総合教育会議でいただいたご意見と最終的な評価を掲載したいと考えております。各事業計画についてのご意見は、各評価シートに欄を設けておりますので、ここには全会議全体に係るご意見を掲載したいと考えております。

また、6 ページにある総合評価は現在の評価を集計したものになっております。今回の審議を経て、各担当課が最終的に決定するものですので、今後変更になることがございます。ご承知おきください。

最後に、本日の会議の進め方として、数事業ずつ区切って委員の皆様にご意見・ご質問を伺いたいと思います。

【市長】

続いて今の説明にありましたが、10 月 6 日に教育委員会権限の事業計画について、学識経験者の方々による、ヒアリングを行っていただきました。その概要について教育委員会から説明をしていただきたいと思います。

【教育委員会事務局】

教育総務課から概要説明をいたします。

10 月 6 日に学識者として重松奈良教育大学名誉教授、岡田天理大学副学長に出席いただき、教育行政事務評価懇談会を開催いたしました。

懇談会におきまして、学識者から、別紙進行スケジュール表の右側に記載しておりますコメントを種々いただいております。そして懇談会の最後に、学識者と教育委員会との意見交換の場を設けました。

その内容として、まず教育委員および学識者から、今年の点検と評価にあたり、様式が見直されたことへの評価をいただきました。

次に、教育委員会から出た意見としましては、「毎年同じようなことを指摘されているような印象を受ける。」「目標と目標値が結びついていないところがある。」

「各所属においては、学識者の意見を課員と共有して改めて事業に取り組んでいってほしい。」「人事異動もあることから、引継ぎをしっかりして繋いでいく。そうすることで、人事異動などの際に適材適所の配置ができる。」「取り組みが複雑化している中、対応できるように取り組んでほしい。」「評価業務をする時期から見てこの結果を反映させる時期にタイムロスがかなりあるのではないか。」「各方面で財政難が叫ばれており、それに対する予算要求などをどうすればよいか。」といった内容のご意見をいただきました。

一方、学識者からは、「この「点検と評価」という業務は、行政がやるべきことを振り返ってどうだったかをチェックできる仕組みになっている。例えばアンケートを取った際に課題が見つかるということが決して問題ということではなく、それをやってみて課題が出てきたら次のテーマにして、課題の解決に向けて取り組んでいく、というように考えれば一つの事業をすることに課題が見つかったとしても、あまりマイナス評価としてとらえる必要はない。」「予算についてはどこも潤沢ではない。お互い知恵を出し合いませんかという状態である。」「今までに評価対象として上がってこなかった、例えば学力学習状況調査と体力調査が上がってきた。このことは市民に対して説明ができ、非常に良かったと思う。」「今後、教育データの活用が問題になってくる。教育委員会がどの授業にどう活用を展開していくのかを検討して取り組んでいってほしい。」「データを集めるのは難しいことではない。難しいのはデータを活用することである。」最後に、「評価シートなどを公開するにあたり市民にわかりやすいように用語集を作成されたい。」といった内容のものでした。

学識者の方から様々な観点から意見や提案をいただき、職員にとってとても貴重な時間になったと思います。早期にクリアできるものは今からでも取り組み、次回に同じ指摘を受けないようにしたいと思います。

【市長】

教育総務課から全体を通しての、学識経験者の皆さん方の意見についての説明でございました。

それでは、資料 1 の評価シートについて、これから委員の皆さんにご意見を伺ってまいりたいと思います。ただしかなりボリュームがありますので、全体を 4 分割させていただいて、その範囲の中でお気づきになった点のご意見をいただきたいと思います。

また冒頭の説明でもありましたが、86 ページ以降は教育委員会権限ではなく市長権限の事業計画になりますので、学識経験者とのヒアリングは対象外となっております。ですので、昆虫館、文化財保存活用課、今井町並保存整備事務所に関しては、後ほど事業をピックアップして評価シートの概略を説明させていただきます。

それではまず資料1の8ページから27ページまでの大事業についてのご意見を賜ります。

【中平委員】

前年までの評価（点検と評価）のときに、指標のところをグラフ形式にしたらどうかっていうので、前回はグラフ形式が出てたんですけど、今回グラフ形式がないので、やっぱりグラフ形式の方が見やすいのじゃないかと思いますけども、いかがでしょうか。

【事務局】

今回目標値と実績値とがございますので、できる限り見やすくなるよう、グラフもあわせて挿入する方向で最終的にまとめさせていただきます。

【伊藤委員】

学識の方からの指摘も結構あったと思うのですけどもアンケートを使った評価指標について、アンケートの理解度、実績値が何%というようなものがあります。例えば 8 ページの最初の案件を始めいろいろありますが、企業でもそうですがアンケートを研修直後にやると当然理解度が高いという結果になります。できればフォローアップの研修なり、フォローアップのアンケートを使って本当に得た知識を実際の現場で使えているかどうかというところまで踏み込めるとベターかなということで一つコメントさせていただきます。

【事務局】

何点かアンケートが指標になっているところがありますので、本日のご意見をお伺いしたことについて改めて調整ということでお願いします。

【平田委員】

ページ数に限らず全体のことについてちょっと気になった点で意見を言わしていただきます。最近よく PDCA ということで企業なり我々も取り組んでおり、これが今回のシートになると思うんですけれども、そうしていくと A（アクション）の部分がここにはちょっと見えてきてないのかなというふうに思いまして。

これを受けて、次年度の取り組み状況、こういうことを目指しますという取組みを記述していけば、それを受けて来年度の評価もしやすいのかなというふうに思うのですけれども、その辺いかがでしょう。

【事務局】

次年度にどう繋げていくかということで今回のこの評価シートを見開きで示させていただいております。今回、令和3年度評価ということで、「課題」があってそれに対して「課題の対応方針」ということで、来年もしくは来年度以降こういうふうに取り組み組んでいくということで示させていただいています。来年度の評価の時点で、令和 3 年度が左側の欄に行きまして右側の令和 4 年度と並べる形になります。そのため令和 3 年度の「課題の対応」に対して令和 4 年度どういうふ

うに行ったかっていうのが、これでわかるようにということで比較できるようにしています。

【平田委員】

そういうことで文章的に次年度はこういうアクションを起こしますという具体的な記述はもうここに載せないということでいいんですか。備考欄とかありますけれども。

【事務局】

次年度については「課題への対応方針」ということでどういうふうにするかということになろうかと思います。取り組み自体は確かに令和 4 年度何するかっていうのは、具体的な取り組みまで書いていないという状況にはなります。それは事業計画の中で判断していくということになります。

【平田委員】

具体的に何をするのかということですが、皆さんの意見を聞きたいのですけれどもどうでしょうか。そういうやっぱりアクションという部分が見えてこないような形でいいのかどうかいうのがちょっと私は疑問に思うのですけれども。

【市長】

委員の皆さん、どうでしょうか。平田委員のご指摘、なるほどというふうに私も思います。ただよくよく考えると令和 3 年度の評価をして次年度令和 4 年がもう既に始まって半年経っているというところは、多分今までも指摘があったのかなというふうに思うのですけれども、この辺りの評価の立て付けもあるのでしょうが、PDCA の A の部分をやはりきちっと明確にした方が次年度に繋げやすいのかなと。次年度が始まってしまっているところをどういうふうに整合性をとっていくのか工夫をするべきなのかなと感じました。他の委員の皆さん方でどうでしょうか。

【教育長】

確かに 3 年度の評価が今の時期になるということは、前も委員から、企業では考えられないような時期だというふうなご意見をいただきました。確かに年度内にこういった評価ができて、そして意見をいただいて、それを 4 年度に反映するというふうな方向をちょっと探っていかないといけないのかなというふうに私自身もそう思っているところです。

【伊藤委員】

前回の学識からのヒアリングでもお聞きさせていただいて、その結果ですね、重松先生だと思うのですけども、行政の仕組みとしてこういうことが仕方ないのであれば、今回こういうふうにアクションプランをチェックする段階では現行進んでる令和 4 年度の事業に参考になる形で解釈をして、それを日々のところに直接生かしていく。そしてさらに令和 5 年度のところには、当然計画の段階から改善

すべきものを織り込んでいくという意図を含めてコメントをしていく。という説明を受けましたので、私は、この仕組みが変えられないのであれば、そういうやり方でやるのがベストなのかなというふうに理解したところです。

【市長】

ありがとうございます。確かに一番理想的なのは年度末までに PDCA サイクルをしっかりと評価ができて、次年度に反映できればいいんですけれども、これがなかなか難しいという現状であるならば、今の考え方でやるしかないということになります。しかし、そうであったとしても、平田委員がおっしゃられたような、しっかりと評価の中に入れ込むということは大事な作業なのかなと思いますけれども、ちょっと改めて事務局どうですか。

【事務局】

ご意見ありがとうございます。伊藤委員がおっしゃったような仕組み、令和 4 年度は事業をしつつ反映していく、と。令和 5 年度の事業の組み立て時にはこういった課題を検討し、また令和 6 年 7 年と計画期間が 5 ヶ年ですので、その中で課題に挙がっていることを実施していくということです。また（アクションを）どういうふうに実施していくかは、他に事務事業評価とかもございますので、その辺のシートなどでも反映できていければということで表記の方法はまた検討したいと思います。

【市長】

学識経験者の皆さん、あるいは今日委員の皆さんからいただいた意見が、次の評価のときに同じようなものが出ることがないように、しっかりと次年度に改善されて進んでいかないといけないと思います。しっかりと検証した上で、今の状況では 4 年度が始まっていますが、始まっていてもできることはして、令和 5 年度に向けて、さらにこの評価を受けてやっていくものも併せて考えていただきたいと思いますのでよろしくお願いをしたいと思います。教育委員会にもお願いを申し上げたいなと思います。

他に今の 8 ページから 27 ページで、何かございませんでしょうか。個別の案件でございますけど、何かあれば。

【松山委員】

24 ページ（事業計画 0090）の ICT を導入する計画で、目標として教員が授業を互いに公開し合うというのがありますが、この公開と言われているのは学校内なのでしょうか、それとも外への公開ということでしょうか。

【学校教育課】

公開につきましては学校内での公開をするということによって、同僚の先生方からの意見というのを聞いて切磋琢磨していただくというような考え方に基づいております。

【松山委員】

現状は学校内なのですね。せっかく ICT で繋ぐのに、学校外は考えてないのかなというのがちょっと疑問で。学校同士を繋ぐとかですね、そういうような教育活動というのは、想定はされてはいないですか。

【学校教育課】

今現在は学校内と、また別途、特定の学校に関しましては指定研究ということで研究事業という中で各学校の先生方に見学をしていただくというのがあるんですけれども、例えば広くなってしまいますとまだ、先生方もそのための準備をしたりとかになりますので、まずは学校の中で普段の授業においての活用をお互いやっていくというふうな視点で思っております。

【松山委員】

将来的にはどう考えられますか。

【学校教育課】

もし少しハードルといいますか、先生方の ICT を活用するということがより普及して、今度は ICT 教育の質の向上というふうに、学校外の先生方とも見学し合って質の向上に努めてまいりたいと考えてはおります。

ただ今は、できる限り先生方が ICT を使う段階ということで、まずは環境を整えていこうという形で考えております。

【松山委員】

私の体験の話ですが、僻地にいるような子供たちですね。なかなか大人数と交わることができなくて、都市部の学校と繋いでいろいろ交流させてあげると大変喜んでくれるのですね。

だから先生の力量も大事な観点ですが、子どもたち同士の交流させてあげる要素も非常にあると思っています。もし可能ならばそういう活動も少ししてほしいなっていうのが私の要望です。

【学校教育課】

ありがとうございます。学校間での子供同士の交流ということも、せっかくの機器導入なので繋げてまいりたいと考えております。

【市長】

ありがとうございました。教える側、教師のスキルアップも当然そうで、だけども子供同士の交流にも非常に効果があるだろうということですので、ICT が進んだ今の時代だからこそできる取り組みだというふうに考えますので、ぜひそういう視点で見たときの橿原市以外との交流ができるように、ぜひ教育委員会でもしっかりと検討していただきたいなと思います。

他にございませんか。

それでは続いて 28 ページから 47 ページまでご意見等ございましたら、よろし

くお願いします。

【伊藤委員】

38ページ（事業計画0160）の通学路交通安全プログラムの安全点検を行うというところですけども、ここで学識の方からも指摘があったと思いますが、事故発生後の対応が中心になっているけども、未然に防ぐ姿勢も大切であるということで、結構、企業・工場とかでしたらヒヤリハットの情報を収集してそういうところから潰していく、そういう活動を地道にやっています。そういった情報というのは学校あるいは教育委員会に集まってくるような仕組みになっているのでしょうか。

【学校教育課】

通学路の安全につきましては、安全対策プログラムで各中学校区だけですが3年に1回でローテーションしております。その中での点検場所ということで、もちろん事故が起こったところについてはそうですが、それ以外にも地域の方もしくは通学路で立しょうされている方やPTAの方も含めて危険と思われる箇所については挙げていただいております。必ずしも事故が起こったところだけを見ているわけではなく、そうした危険と想定される場所についても安全対策プログラムの中で検討してまいりたいと考えております。

今現在はそういった当プログラムの組織の中において危険と思われる箇所も含めまして該当箇所を挙げていただいて点検しているというような状況です。

【伊藤委員】

挙がってきたものに対しては、何らかのアクションが行われているということでいいですか。

【学校教育課】

はい。道路の管理者が市道・県道・国道によって変わるんですけれども、学校と道路管理者、学校教育課含めまして全て検討させてもらった中で対応を考えております。

【市長】

伊藤委員のおっしゃった工場では、ヒヤリハットの情報を集めてできるだけ注意喚起をしていくみたいなことをされているということですね。それでは、教育委員会の方も今の説明のようにしっかりと対応をよろしくお願いを申し上げたいと思います。

他にありますか。

【平田委員】

34ページ（事業計画0140）ですが学校施設整備基本計画のところです。

予算的な部分でクラウドファンディングとかで資金集めてされているところもあるというふうに聞いているのですが、橿原市で予算的な部分で、外部資金の獲得とかを考えられているのかなというのをちょっとお聞きしたいのですが。

【教育総務課】

企業版ふるさと納税とかですね、クラウドファンディングまではいかないのですけども、今後子供たちの安全のために施設整備をするお金を市の予算内で賄うのはとても厳しい状況の中で考えていかざるを得ないと思いますので、そういう検討していきたいと思っています。

【平田委員】

ありがとうございます。

【市長】

できるだけこの事業には寄付をしてあげようといったクラウドファンディングなどのメニューを作っていくということは大事なことだと思いますので、教育委員会に限らず、全庁的にも歳入の確保というところはしっかりと取り組んでいきたいと思います。施設においてはかなり今、長寿命化の工事が立て続けに来ますので、そういった手法もしっかりと考えていきたいと思います。教育委員会の方もよろしくお願いを申し上げます。

他にございますか。

では、48 ページから 67 ページまでの間でご意見等お願いをしたいと思います。

いかがでしょうか、よろしいですか。

それでは 48 ページから 67 ページにつきましては特に今ご意見が出ませんでしたので、その次行かせていただきたいと思います。

教育委員会権限の分につきましては、終わりになりますけれども、68 ページから 85 ページまでの間で何かございますか。

【平田委員】

ちょっと直接関係ないかもしれないですけども。教育委員会の管轄の中で万葉ホールがあるわけですけれども、ワクチン会場でという意見がここに結構出ているのですけど、今後のそのワクチン会場の使用状況というか規模拡大縮小とか、もっと施設を有効に活用できるとか、そういう方向性とか今のところどうなっているのでしょうか。

【教育委員会事務局】

先日より新しいオミクロン対応のワクチン接種が始まりました。

また 10 月 21 日から今まで接種期間 5 ヶ月だったのが 3 ヶ月に短縮されましたので、7 月・8 月に 4 回目接種された高齢者の方、今後たくさん来られると思います。それによっておそらく 12 月までは結構、予約状況でたくさん来られるのかなと考えております。ただし今のところ、オミクロン対応ワクチンは 1 人 1 回という国の方で定められておりますので、3 ヶ月たったからといって 2 回目を打てませんので、今の基準でいくと、年明けから結構空いてくるのかなと思っています。

ワクチン自体が 3 月までということなので、今後追加接種がなければ万葉ホー

ルの活用を考えていかないといけない時期が迫ってきているかなと思っております。1 階のロマントピアホールも地下の部分を小児ワクチンで使っておりまして、楽屋部分が使えない状況にはあるのですけども、諸条件をクリアしたら、使える団体さんには開放していくのも必要かなと思っておりまして、年明けから利用することも今考えています。ワクチンがこのままもう 3 月時点で終わるということになりましたら、文化ホールの方も上のレセプションの方も使い方を検討していきたいなと考えています。

【平田委員】

ありがとうございました。

【市長】

教育委員会の方でまたいろいろと調整をお願いしたいと思います。

他に何かございませんでしょうか。ないでしょうかね。

私から一、二点聞かせてもらいたいのですけれども、80 ページ（事業計画 0370）です。

文化芸術の推進について。万葉ホールについては場所がなかなか使えないということがあるのですが、文化庁の予算を活用し、学校で文化に触れるということで、お笑いの文化について吉本新喜劇のイベントの取り組みを教育委員会の方でしていただくことになっていると思うのですが、できるだけこういう文化庁の補助メニューとかをしっかりと研究して活用することによって文化芸術に対する子供たちの関心を高めるというふうな取り組みは必要かなと思います。

何かその点について教育委員会の方でこういうふうな取り組みをしているとかっていうこと何かございますか。

【学校教育課】

従来であれば、文化鑑賞ということで保護者負担を取った上で、全ての小学校に対して文化活動の助成をしておりました。今年度につきまして今市長の方から申し上げた事業を 9 校で実施をしております。従前より文化庁の案内につきましては各学校の方には周知をしております。ただ、なかなかこれまでは採択も難しかったというような現状です。次年度につきましても、全ての学校が今回採択されているわけではございませんので、何らかの文化の活動を文化庁の支援ももちろん手をあげながらも、検討を続けてまいりたいと考えております。

【人権・地域教育課】

文化振興という面で自主事業を開催する場合に、宝くじの助成事業というのがございまして、こちらが企画するものと合致するものがあれば積極的に活用していきたいと考えています。またここ数年、コロナで万葉ホールを使っての事業ができないでおりましたが、以前からこういった宝くじの助成事業については、積極的に活用しています。

【市長】

様々な補助メニューがあるとは思いますが、できるだけアンテナを張っていただいて、当然しっかりと学習させることは大事ですけれども、文化とか芸術に触れるそういう機会をできるだけたくさん子供たちに提供してあげたいなというふうなことを思います。

本物のお笑い文化をしっかりと子供たちに見せる、あるいは芸術作品を見る、音楽を聞くとかですね、あるいはスポーツなんかでトップアスリートの試合を見る、あるいは練習して指導を受けるとかですね、何か大物を見せてあげたいなというふうなことを思いますので、そういった取り組みをできるだけ補助を活用しながら、ぜひお願いしたいなというふうに思います。

次に、74 ページ（事業計画 0340）で、これは学識経験者の方の評価も非常に良い評価だったと思いますが、この男性の参加を促すのが良いということについて、具体的にどんな取り組みでどういうふうな活動をされているのか教えていただけますでしょうか。

【人権・地域教育課】

こちらの事業につきましてはいくつかのメニューがありまして、例えば就学前のお子さんとその保護者が参加していただいて、リズムを通じて、また体操を通じて学んでいただくメニューや、あとは赤ちゃんと遊ぼうという、市内在住の保護者の方、お父さんの参加も積極的に推進しておりまして、そういった男性の方も積極的に育児に入ってきていただくことで、まず家庭教育の教育力を高めていこうと。またその保護者同士の交流の場を設けまして、普段から様々な子育てに関する悩みとかあるかと思います。そういった情報の共有をしながらお互いに助け合いながら、子育てを通じて家庭の教育力を高めていこうということで、特に男性の方の育児への参加というのを積極的にテーマにして取り組んでいるところでございます。

【市長】

はいわかりました。ありがとうございます。引き続きよろしくお願いをしたいと思います。

68 ページ（事業計画 0310）です。市民の学ぶ意欲の支援というところで、これはもう要望というか意見ですけれども、学識経験者の方の評価の中にも人気がなくても学ぶ意欲のある方にシリーズで深くしっかり学べる講座編成を考えていただきたいというふうなことがありました。

できるだけたくさんのメニューがあるにこしたことがないのかなというふうに思います。予算的なこともあるのでしょうけれども、市民の皆様の学ぶ意欲をしっ

かり高めていくっていうことも大事なことなのかなと思います。親御さん世代が興味を持ってもらえると子どもに対しての教育の考え方もまた変わってくるんだろうと思いますので、市民の皆様が学びやすい、あるいは少ない人数でも興味を持たれた方への支援ができるような講座をしっかり考えてもらいたいなと。外国語教育とかも書いていますが、特に、理数系、物理・科学・数学みたいなところに親御さんが興味を持ってくれると、子どもにもその波及効果があるんじゃないかなと思いますので、こういった講座も積極的に活用してしっかり PR をして市民の皆さんに参加していただけるような取り組みをさらに推進してほしいと思いますが、何かありますか。

【中央公民館】

外国人向けの講座ということで、日本語講座をしております。今後、今おっしゃっておられました理数系の講座もいろいろ念頭に置きながら学んでいただけることを広くやっていきたいと思います。

【中平委員】

いろんな年齢層でいろんな講座を設けていただきたいのですけども。

たまたま私、郡山市の方で友達がいるんですけども、その中で演劇関係でも、年をとった人がみんな集まって歌劇をする。みんな市民が集まってするのですね。毎年毎年これやっているんですけども、そういうふうな好きな方が集まれるような講座をちょっと考えていただけたらなって思っています。

【中央公民館】

いろいろ年齢層を考えて講座をやっておりますけれども、今おっしゃった踊るようなのは初耳でございまして、以後はそういうのもあるということを念頭に事業を展開したいと思います。

【市長】

よろしくお願いをします。

【松山委員】

今、市長さんおっしゃっていただいた理数教育について、さすが深い認識をお持ちだなと思って関心していたんですが、そのような教育をどうしてもやらなきゃいけない、日本という資源がない国だからですね。

最近では県内で奈良女子大が工学部を立ち上げましたよね、それは女子教育の中に工学を入れる。それから奈良県立大学が計画中で理工学部を県内に作る。そういう大きな流れがもう発生していると僕は思うのですよ。もちろん国立大なり大きなところが動いているので、市が何かできるかは私にはちょっと把握しきれない内容ですが、そういう様々な講座をですね、橿原市としていろいろ支援していくというのはさっき市長おっしゃられたように、子どもはまず親の姿を見るのですよね。

お母さんが例えばそういう理科のところに何か興味を持ったら、子どもたちもすごくやっぱり感化されてですね、大好きになっていくという部分があります。

その子どもたちが、ゆくゆく人材として育ったときに、橿原市でそういう子が育ち、優秀な理工系の人材が育つなんてことが実現できたらですね、橿原市にいわゆる一つの理工系のメッカを築くというようなこともあり得ると思うのですよ。

橿原市は名古屋・大阪・京都・和歌山、いろんな交通の要所になっていますので、逆にそういうのが栄えないのが不思議なぐらいでですね、ここに一つの集約できる大きなハブができるのじゃないかという可能性を持っていると思うのです。なので、そういう理数系、理工系の方でも市で力を入れて、もちろん文化財という大事な要素もありますが。ただ今、国からお金を引っ張ってこられるのは理工系なのですね。理工系・理数系、様々な予算の制度を用意していますので、橿原市が痛み分けする必要なくて、国のお金で人材を育てる、これを全国発信し、あわよくば帰ってきてもらう。そこに企業がついてくる、なんてことが実現できる可能性はここ十分にあると思うので全く市長さんのおっしゃる通りその辺の力を進め、集結させていただけたら、いい豊かな市ができるのじゃないかと思うのですけど。

【教育長】

子どもたちの理数離れということで、特に理科の実験観察とかそういったものもあまりしていないということもありますが、学校現場では支援員や理科の実験を担当する先生などが、子どもたちを育てていきたいという思いで取り組んでいる。おっしゃる通りなかなか苦手意識を持っている子どもたちが多いですけれども、こども科学館もございますので、こういったものも活用していきたいと思っております。

【市長】

はいありがとうございます。

現場で教える先生方は大変だというふうに思いますが、国語も歴史・社会もどれも大事ですし、文化芸術は人間性を高めていくのには必ず大切です。

できればちょっと大きな目標ですけど、ノーベル化学賞ぐらい取る人物が橿原市から出てきたら面白いなという、それぐらいの大きな夢を持ちながら、理科、物理・化学・数学みたいなところにも力を入れるということはいいことだろうと以前から話をしてきましたので、また教育委員会の中でもしっかりと議論していただけたらと思います。

他にございますか。

それでは、これから先 86 ページ以降については、市長権限の事業計画となりますので、学識経験者の方の評価は受けておりません。

そのため、それぞれの担当課から事業評価の説明を聞いた上で、委員の皆様から

ご意見を賜りたいと思いますのでよろしくお願いします。

【担当課からの説明】

資料１　p86～87（事業計画 0400）：昆虫館

P88～95（事業計画 0410～0440）：文化財保存活用課

P96～101（事業計画 0450～0470）；今井町並保存整備事務所

に基づき説明。

【市長】

ありがとうございました。

市長権限の事業評価についてのご意見いかがでしょうか。

まず、私から。88 ページ（事業計画 0410）の歴史に憩う橿原市博物館について、私自身はなかなかいろいろな趣向を凝らしたイベント企画があるなと感じております。評価としては B となっていますが、橿原高校等、様々なところとの連携した事業もあるという認識をしております。積極的に情報発信しているなと思います。どうでしょうかね。

まだまだやるべきことがあるということになるのでしょうか。そのあたりの見解をちょっと聞かせていただけたらなと思うのですがどうですか。

【文化財保存活用課】

歴史教育というものを博物館、それから博物館外で展開しようとしたときに、これまで紹介してきたやり方が歴史教育という側面があったので、やはりそこは歴史を学んでいる世代が注目いただけるのかなと。ただ歴史を学べない、例えば小学校に伺いますと、3 年生だったのですが「昔の土器を見たい」というような声も受けたところでして、「今日は持ってきてないの？」っていう声があったりします。児童はやっぱり興味は持っているのだろう、ということは認識いたしました。

ですので、先生方にもその辺の子どもの好奇心をより刺激してもらうような、何かそういう取り組みを私たちと一緒に考えていただけたらなというふうに思っております。

【市長】

この前、新沢地区の催しで地区の皆さんが作られたいろんなものが展示してある文化祭に伺いましたが、そのなかで、博物館から講師に来ていただいて、瓦の拓本を子どもたちが体験した作品がたくさん並んでいたんですよね。子どもたちが楽しそうにしている写真もいっぱい飾ってありまして、職員さんが行って実際にいろいろ教えている写真もたくさん展示されてました。

各小学校へ行く取り組みなんかも積極的にしてほしいと思いますのでよろしくお願いをしたいと思います。

【平田委員】

私の調査不足かもしれないですが、今発表のあった歴史に憩う博物館とか、施設の案内をもうちょっと充実した形でホームページでできないかなと考えておりまして。市のホームページの一部でしか見つけられなかったんですけど、独立したホームページでもうちょっと中身を充実させた内容のものができたら外部からもアクセスが増えて、利用者が増えるのかなと思うんですけれども、その辺いかがですか。

昆虫館とか他はあまり調べてないのでわからないんですけれども。

【昆虫館】

昆虫館としては市のホームページの中の一つとして掲げておりまして、いろいろなイベントの広報はしております。また、昆虫館としてツイッターで企画展・特別展などの情報も発信しております。学芸員のいろいろな研究とか情報とかも流しております。

【文化財保存活用課】

歴史に憩う橿原市博物館でも、イベントの情報発信しております。コロナ禍で訪れる方が減ってきたという状況で、動画配信させていただいております。令和 3 年度については 7 件の動画、その中でも博物館自体を、少しユーモアを入れて紹介しました。遠方やコロナなどの理由で展覧会など鑑賞に来るのを控えておられる方々に向けて、担当している学芸員が、その中身について見どころを紹介するような動画もありまして、それを注目いただいてる方もいらっしゃるというような状況でございます。

【企画戦略部長】

ホームページのリニューアル作業を今しておりまして、令和 5 年 4 月にリニューアルし、検索しやすいような形にはなると考えております。

LINE については、あまり情報量を流しすぎるとブロックされるということもありますので、今回リニューアルするにあたって、カテゴリーを分けまして、そのカテゴリーに登録した人に向けて情報を発信することを考えております。情報発信に力を入れていきたいと考えております。

【平田委員】

橿原市にあるせっかく素晴らしい施設なので、外部から見られるのはまずそういったホームページが顔になってくると思います。そこを充実させることが一番いいのかなというふうに思います。一般の方がどういった形で施設を調べられるもよく調査していただいて、よりよいものを作っていただけたらなと思いますのでよろしくお願いします。

【市長】

はい貴重なご意見ありがとうございます。

ホームページはしっかり作らないといけないということで、今年度かなり今力を入れて作業してます。

ただ、若い方から聞くと、取っ掛かりはインスタであったり TikTok であったり、あるいは YouTube といった動画であり、そこからホームページを深掘りして探しに行くと聞きます。

平田委員が言われたように、とっかかりの部分もやっぱりしっかりと力入れないと、ホームページをダイレクトに見に来てくれるっていう人はなかなか最近少ないのかなと。

興味を持つ身近な動画を配信して、それが何か心に響くとこれをもう少し深く探していくときに、ホームページは非常に効果があるんだろうと思うのですけれども。

これは担当課だけではなくて橿原市全体的な課題かもしれませんけれども、興味をいかに持ってもらえるのかっていうところもしっかりと研究をする必要はあるだろうなと思いますので、お願いしたいと思います。

はい他にございますでしょうか。

【平田委員】

最初に言ったところですが、3 年度と 4 年度とごちゃごちゃになってしまったところがあるんですけども、外部の方が見てわかりやすくなればいいのかなと思います。

そして、学識経験者の方から 10 月に受けた意見を反映されるのが 1 年先になってしまうのは非常にもったいないと思います。

点検の時期なり、何かもうちょっと有益に活用できるようになればと思います。改善に向けての評価によりなるような方向で、またお考えいただけたらと思っております。

【事務局】

ご意見ありがとうございます。平田委員おっしゃったように、評価の時期とその予算立ての時期、またそれを実施する時期のタイミングにずれが起こっていることは、この教育大綱のアクションプランに限らず、事務事業評価や、その上位の総合計画の施策評価、他にも様々な計画の評価が同じようなタイミングで流れていると認識しており、課題として大きく持っています。全体的にどういうふうに評価していくのがいいのか、大きく考えていかないといけないと思っています。多数の計画が存在していますので、評価の重複も課題として持っております。

全体的にかかってきますので、その辺の仕組みというのはよく研究しながら、スムーズな評価に繋げていけるように改善していきたいと思います。

【市長】

繰り返しになりますけど、とにかく見やすい資料をまず作ることと、改善に向け

ての評価がしっかりと明記されるように検討してもらいたいと思います。

他にございませんでしょうか。

ご意見のなかった部分については、総合教育会議のコメントという欄に「引き続き、目標達成に向け取り組んでいくこと」というふうな形でまとめさせていただいてよろしいでしょうか。

（同意）

それぞれにいただいたコメントは、ページに反映をさせていきたいと思いますので、事務局の方もよろしくお願いします。

6．議題２「教育大綱アクションプランへの事業計画の追加について」

【市長】

続いて議題２へ移ります。

教育大綱アクションプランへの事業計画の追加についてというとことで、まず事務局から説明をお願いします。

【事務局】

資料２ご覧ください。

このアクションプランは令和３年度に作成いたしましたが、令和４年度、機構改革で市長権限の放課後児童健全育成事業が市長部局から教育委員会へ補助執行という形をとり、人権・地域教育課で事務を執行している状況でございます。このことについて事業計画を追加することで考えております。

また、アクションプランの「生涯学習・社会教育」の項目の中にスポーツ活動の推進、スポーツを応援する環境や活動の礎となる基盤整備に取り組むことを方針に記載されております。これが昨年のアクションプラン策定時に反映できておりませんでしたので、追加を考えております。

評価につきましては今年度からの事業計画について、来年度以降に評価を行うということになります。

追加する事業計画について、人権・地域教育課、続いてスポーツ推進課から説明させていただきます。

【人権・地域教育課、スポーツ推進課】

資料２　上半分：人権・地域教育課

下半分：スポーツ推進課

それぞれの事業計画を資料に基づき説明。

【市長】

説明ありがとうございました。

質問、意見あればお願いします。

【伊藤委員】

令和 3 年度は目標設定もなかったわけですよね。

それで、令和 4 年から追加の事業として計画がスタートするという理解でよいでしょうか。

【事務局】

今回、事業計画の追加が今年度からということで、それぞれの事業計画を立てるときに目標値は令和 4 年からの設定でお願いしておりますので、今年度からの目標数値とさせていただきました。

【伊藤委員】

わかりました。もう既に令和 4 年度が半分経過していますが、例えば待機児童ゼロとか、スポーツイベント 1 万 200 人というのはどういう進捗になっていますか。年度初めから、すでに取り組みを進めてきているんですか。

【人権・地域教育課】

学童クラブについては、待機児童ゼロを当初から目標としています。施設の整備等も今年度も取り組みながら、今日現在では、待機児童が発生していないという目標をクリアしている状況でございます。

【スポーツ推進課】

令和 4 年度の 1 万 200 人につきましては、まだ年度途中でございまして、これぐらいになるかなという予想値でございます。この予想値をもとに令和 5 年、令和 6 年と想定させていただきます。

【伊藤委員】

令和 4 年は、目標値じゃなくて予想値っていうことですね。

【スポーツ推進課】

おっしゃる通りで、令和 4 年度ではそのように思っております。

【伊藤委員】

はい、わかりました。

【市長】

ちなみに今現在、数は捉えてないのですね。

【スポーツ推進課】

はい、まだ今のところ年度途中での集計まではできておりません。

【市長】

はい、目標達成に向けてしっかりとお願いしたいと思います。

他にご意見ございませんでしょうか？

それでは事業計画の追加につきましては、以上で終わらせていただきます。

以上で本日の議題としては終了いたしました。

ご意見をいただきました内容につきましては、教育大綱アクションプランの令和３年度評価についての評価報告書に反映をさせていただきたいと思います。

また事業計画の追加につきましては、アクションプランの方に追加をさせていただきます。

それでは全体を通して、ご意見等いかがでしょうか。

【教育長】

本日はありがとうございました。理数教育の話も出てきましたが、私、先日、校長先生から学力学習状況調査の結果分析についての報告を受けました。その中で、しっかりと問題の中身が読み取れないとの課題を受けました。以前からご承知の通り、読書活動を学校で取り入れてほしいと言っています。現在、図書館もだいぶ変わってきているんです。特に子どもと本の広場という形で、図書館の入口真正面に子どもと保護者が一緒に絵本を見る場所を作ったりとか、また小学生に「図書貸し出しカードを作ってみませんか」と声をかけるといったように、図書館に行ったことがない子どもたちが、少しでも本と触れ合うことができるよう進めているところです。もちろん教科書からスタートするんですが、いろんな分野の本を読めることが大切かなと思いますので、就学前から、本に親しむ活動をこれからも続けていけたらなと思っています

【市長】

ありがとうございました。

他にご意見ありますか。

子どもの教育環境の充実にしっかりと力を入れてまいりたいと思いますので、また委員の皆様方には、様々なご意見、ご指導いただきたいというふうに思います。今後ともよろしくお願いします。

それでは進行の方を事務局にお渡しします。

【事務局】

ありがとうございました。

先ほど最初の平田委員のご質問で、アクションの A の部分に関して、これと関連する事務事業評価というのを別でやっております。また、次年度以降については実施計画というのも別途作成しております。それは市全体のそれぞれの分野で作成しているのですが、具体的に何するかというのも書かれている部分もありますので、こういうのも合わせて見ていただけるような形で、来年度以降進めさせていただければと思います。

今回ご意見を踏まえて最終的に取りまとめた報告書の完成版を作成いたします。

本日はありがとうございました。